

特集 偉大なる教育者

# 清水安三

新旭町出身の教育者 清水安三先生が、平成25年12月上演予定の第3回市民劇の題材となるのが決まりました。今回の特集では、人生の全てを教育にかけた清水安三先生とはどのような人物だったのかをご紹介します。

新旭町で誕生 宣教師として中国へ 中国で学校を創立、「北京の聖者」と称される

清水安三は、1891年（明治24年）滋賀県高島郡新儀村（現・高島市新旭町北畑）に生まれ、旧制膳所中学校時代にウィリアム・メレル・ヴォーリズに出会い、クリスチャンとなりました。

1917年（大正6年、26歳）日本組合基督教会の宣教師として中国に渡り、宣教活動の傍ら近隣の子どもたちを集めて児童館活動を開始。1919年には北京で日本から寄付を集めて飢えに苦しむ子どもたちを預かります。これにより助けられた子どもたちは799人もいたそうです。

これらの功績により中国側から受勲があり、報奨金を受けます。これを基金として1921年（大正10年）北京朝陽門外に女子教育のための崇貞学園を創立。中国人のみならず朝鮮人、日本人も分け隔てなく教育し「北京の聖者」と称されました。それぞれの民族意識を大切にしながら教育を行い、貧しい子どもたち一人ひとりに教育の機会を与えた清水安三の功績は、現代においてもなおその光を放っています。

この学校は1945年（昭和20年）の終戦まで続きましたが、

その後北京市立の朝陽中学として引き継がれ、陳経綸中学と名前を変えて、現在も清水安三先生創立の学校として引き継がれています。



当時の崇貞中学裏門



現存する崇貞学園校門



陳経綸中学校



陳経綸中学校校舎壁面の創立記念盤（レリーフ）にも清水先生の姿があります。

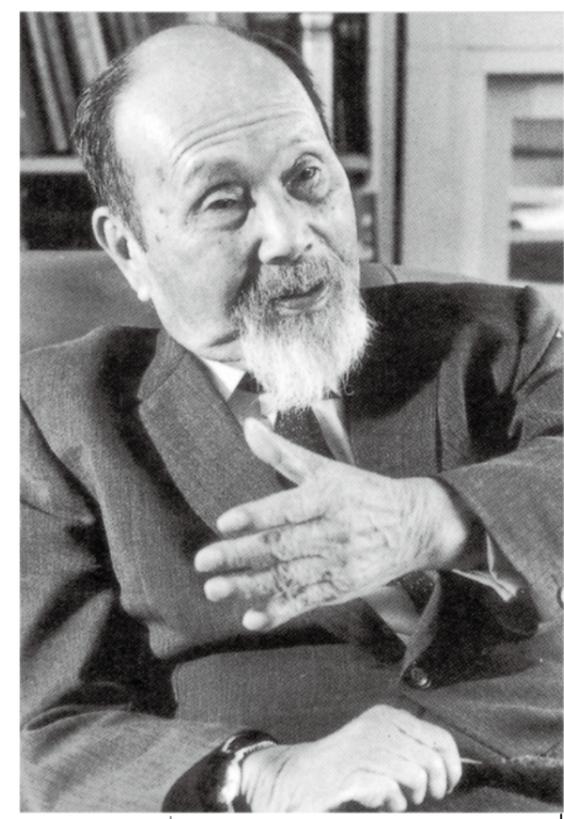
桜美林学園を創立、新旭町の名誉町民に

1946年（昭和21年、54歳）、日本に帰国すると同年5月、東京都南多摩郡忠生村（現・町田市）

に桜美林学園を創立し、桜美林高等女学校を設立します。その後学制改革により男女共学の桜美林中学校、桜美林高等学校、桜美林短期大学を設立、1966年には桜美林大学を設立し、総長として陣頭に立ちました。

1975年（昭和50年）1月、新旭町制20周年の記念式典において、名誉町民に選ばれました。

1988年（昭和63年）1月17日、96歳で永眠されました。



- 1891年 6月1日誕生
- 1910年 旧制膳所中学校卒業
- 1915年 同志社大学卒業
- 1917年 中国（瀋陽）に渡る（26歳）
- 1919年 北京に移住
- 1921年 崇貞工読女学校（崇貞学園）創立（30歳）
- 1924年 オベリン大学へ留学
- 1926年 オベリン大学卒業
- 1945年 崇貞学園接收
- 1946年 3月 帰国
- 5月 桜美林学園創立（54歳）
- 1988年 1月 死去（96歳）

# 学而事人

言葉

**学而事人（がくじじじん）**  
 ……学びて人に事える

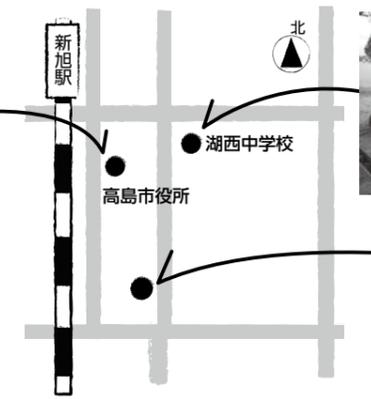
これは、清水安三先生が終生大切にされた言葉で「学問は決して自分のためだけにするものではありません。身につけた力を社会に役立てることが大切です。」という意味です。



関連書籍

- 「石ころの生涯」 清水畏三／編（桜美林大学）
- 「朝陽門外の虹」 山崎朋子／著（岩波書店）
- 「清水安三と中国」 太田哲男／著（花伝社）

**清水安三の銅像**  
 市役所敷地内に清水安三先生の銅像があります。これと同じ銅像が、桜美林大学（東京）と、陳経綸中学（中国北京）にもあります。



**学而事人の石碑**  
 湖西中学校の校門入ってすぐそばにあります。



**生誕地**  
 生家跡には記念碑があります。